

## 2020 年度 小委員会活動成果報告

(2021 年 2 月 10 日作成)

小委員会名	建築・空間ストック活用小委員会	主 査 名：門脇 耕三 就任年月：2020 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会 (設計計画・構法計画運営委員会)	委員長名：小野田 泰明 主 査 名：岸本 達也
設 置 期 間	2020 年 4 月 ～ 2022 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>本小委員会では、建設時の発想や最適化だけで建物、構法を捉えるのではなく、建物の利用やニーズの変化といった時間軸を踏まえて構法を捉えるとともに、建物の再生方法を研究していく。さらに、建物を取りまく住環境をどのように向上していくか、国際的に確立されたオープンビルディングの計画手法を参考に研究を展開していく。具体的には、以下の課題に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期利用が可能な建物の計画／設計／施工技術の研究</li> <li>・マスハウジング期に建設された建物、及び、団地のストック活用手法と周辺エリアの住環境の再生手法の研究</li> <li>・ソーシャルハウジングの概念の再生に関する研究</li> <li>・住宅におけるカスタマイゼーション手法の体系化（新築、改修とも）</li> </ul> <p>あわせて、CIB W104（Open Building Implementation）の日本窓口として、オープンビルディングに関する研究・実績・教育の普及活動にも取り組む。</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	主査：門脇耕三（明治大学） 幹事：土井脩史（京都橘大学） 委員：納村信之（名古屋商科大学）、田島則行（千葉工業大学）、南一誠（芝浦工業大学） 安達好和（(株)アルク）、忍裕司（(株)竹中工務店）、村上心（椋山女学園大学）、 石山央樹（大阪市立大学）、藤原寛典（積水ハウス（株））、入江徹（琉球大学）鈴木あるの（京都大学）	
設置 WG (WG 名：目的)		
2020 年度予算	135,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： <a href="http://news-sv.aij.or.jp/keikakusub/s13/">http://news-sv.aij.or.jp/keikakusub/s13/</a>

項 目	自己評価
委員会開催数	2 回（年度内計画を含む）
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	構法系研究オンライン発表会の開催（2020 年 9 月 10 日午後） 発表者 15 名、参加者約 40 名 ※本小委員会、各部構法計画小委員会、木造構法小委員会による共同主催
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	

<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オンラインによる小委員会を2回開催し、委員及びゲストスピーカーによる研究報告と意見交換を行った。2020年8月25日には加茂みどり氏(大阪ガス)、2020年12月18日には河野直氏(つみき設計施工社)をゲストスピーカーとして招いて実施し、ストック活用に関する最新の実践や研究に関する情報把握を行うことができた。</li> <li>2. オンライン開催としたことで、例年以上に多くの委員や委員外の研究者・学生に参加してもらうことができ、活発な意見交換を行うことができた。</li> <li>3. 2020年度の建築学会大会が中止になったことに伴い、代替措置として構法系研究オンライン発表会を構法系3小委員会の共同主催で開催した。学生を含む15名による研究発表が行われ、活発な議論を行うことができた。</li> </ol>
<p>委員会活動の問題点 ・課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オープンビルディング研究に関連する新しいテーマの開拓</li> <li>2. 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、予定していたNEXT21の見学会が中止となった。</li> </ol>